特集

早期の被災地復興を目指し 地域一体で支援に取り組む

3月11日に起きた東日本大震災。我が国観測史上最大規模の地震によって、東日本は甚大な被害を受けました。震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地の方々に心よりお見舞い申し上げます。未曾有の大震災を受け、全国のJAでは被災地への支援活動を行っております。当JAでも能代市からの要請を受けて、玄米50俵を精米処理して3月14日に岩手県大船渡市へ送っております。4日後の3月18日にはJA独自の被災地支援として、玄米50俵（精米処理済み）、あきた白神ねぎ150kg、二ツ井加工所で作られた味噌40kgを大船渡市へ発送しました。また組合員の皆様からも、平成22年産の飯米・保有米のご提供を頂き、誠にありがとうございました。

そして4月2日から6日までの5日間、JA職員2名が市職員や市民ボランティアの方々とともに、大船渡市で支援活動を行ってきました。また第二陣として4月24日から27日までの4日間、JA職員2名が支援活動を行ってきました。JAでは今後も地域一体となって、一日も早い被災地の復興を目指し、支援を続けてまいります。

震災後から全国で食料不足による問題が起き、農業への関心が高まっています。食料を外国からの輸入ばかりに頼るのではなく、国内農業を発展させて食料自給率を向上させることが重要となっています。そのような情勢の中で、JAでは被災地復興支援を通じて、更なる農業振興に努めてまいります。

次のページからは、4月24日から27日まで復興支援を行った職員2名のレポートと、被災地の大船渡市で発行された学校新聞「希望」を掲載いたします。

▶4月2日の出発式の様子

▶避難場所での物資仕分け作業

▶日々の支援内容